

【日本財団助成事業：進水式の一般公開等】

当会では、日本財団より助成金の交付を受け、次世代を担う子ども達に造船業を通してものづくりの素晴らしさを知ってもらうため、また地域住民の方々には、造船業が地場産業としての重要な産業であることを再確認してもらうために「進水式や造船所の見学会」を行っています。

平成27年11月12日（木）臼杵市立下北小学校 船舶塗料講演会

11月12日（木）、臼杵市立下北小学校5年生34名（教員2名含む）を対象に、船舶塗料講演会を実施しました。（講師：中国塗料（株） 江藤 陽 氏）

中国塗料は、主に船に塗る塗料を製造している会社で、その名のとおり中国地方、広島県竹原市に大きな工場・研究所を構えています。広島県には、ほとんどの子ども達が行ったことがあるようです。

船の「塗料」に注目することはなかなかないかもしれませんが、ただ色を付けるだけではなく、海水に浸かる船底に塗る「サビを防ぐ塗料」や、直射日光が当たる甲板が熱くなるのを防ぐ「遮熱塗料」など、立派な役割があることを教わりました。



船に塗る塗料ってどんなもの？まずは講義で学習します

講義で勉強した後は、「新しい塗料を考える」グループワークを実施。班ごとに「こんな塗料があったらいいな」というアイデアをまとめ、発表するというものです。江藤先生にもアドバイスをもらいながら、各班一生懸命考えます。中には、「発表まで企業秘密です！」という自信満々の班も。



どんな塗料にしようか！？



先生にもアドバイスをもらいながら考えます

グループワークの終了時間を2回延ばすほど熟考してくれた子ども達、緊張気味で臨んだ発表では、「良い匂いがして、お客さんが自然に集まる塗料」「夜に光って船を発見しやすい塗料」「ソーラー発電塗料」など、夢のある、でも実現したら売れるかも？という塗料が披露されました。将来中国塗料で、このような塗料が製造されるかもしれません！



力作を皆の前で発表します



各班一生懸命考えてくれました

最後に校長先生から、「この仕事をしていて良かったことや、どんなことにやりがいを感じるか教えてください。」とリクエストがありました。江藤先生は「たくさんの人と出会いがあり、お客様に喜んでもらえた時にはとても達成感があります」と、この仕事の魅力を語っていただきました。

平成27年11月13日（金）（株）臼杵造船所 進水式見学会

12日の講演に引き続き、この日は学校からもほど近い臼杵造船所にて進水式の見学です。進水する船が見えると、子ども達からは「でっかい！」「あんなに大きいと思わなかった」との声が。全長約150mの船、運動会や体力測定で走る50m走の3倍もの長さです。美しい赤色と朱色で、きっと昨日勉強したような塗料が塗られているのでしょう。



下北小学校5年生の皆さん



教わった塗料が塗られているのかな？

雨にも関わらず集まったたくさんの来場者が見守る中、式典がスタート。安全・天候の関係で餅撒きは控えめに行われましたが、子ども達全員の分をお土産に用意してくださっていました。

命名、進水準備と式典が進むと、いよいよ緊張感が高まります。「支綱切断！」の合図と

ともにシャンパンが割れ、真っ赤な大きな船が勢いよく海へと降りて行きました！華やかな進水の瞬間に会場からは拍手が起こり、子ども達も身を乗り出して船を見送っていました。



お祝いの餅撒き



新しい船の誕生です！



雨天をも吹き飛ばすような迫力満点の進水でした！

最後にサプライズで、昨日の塗料講演会のお礼・感想のお手紙をいただきました。この日は江藤先生は進水式に来られなかったのですが、後日当会よりお渡ししましたが、とても喜んでいらっしゃいました。

校長先生もおっしゃっていましたが、この見学会・講演会を機に、地元の産業でもある造船のこと、それに関係する様々な仕事について、子ども達に興味を持ってもらえれば幸いです。

臼杵造船所の皆さま、貴重な経験と時間をありがとうございました。

見学した進水船舶の主要目は以下のとおりです。

船名：BIRDIE TRADER

船種：ケミカルタンカー

全長：145.00m

幅：23.70m

深さ：13.35m

載貨重量：約 19,700mt

航海速力：14.60knot（時速約 27km）